

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

令和5年10月26日発行

1. 発生動向

上段は発生患者数、下段は定点当たり

疾病	疫学週				判断基準(定点当たり)		
	39週	40週	41週	42週	警報レベル	注意レベル	
	9月25日～10月1日	10月2日～10月8日	10月9日～10月15日	10月16日～10月22日	開始基準値	収束基準値	基準値
インフルエンザ#	4 1.33	5 1.67	3 1.00	5 1.67	30	10	10
新型コロナウイルス感染症#	19 6.33	12 4.00	14 4.67	10 3.33	-	-	-
RSウイルス感染症	0 —	1 0.50	0 —	0 —	-	-	-
咽頭結膜熱	0 —	1 0.50	2 1.00	1 0.50	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0 —	0 —	1 0.50	0 —	8	4	-
感染性胃腸炎	7 3.50	3 1.50	5 2.50	10 5.00	20	12	-
水痘	0 —	0 —	0 —	0 —	2	1	1
手足口病	2 1.00	3 1.50	0 —	1 0.50	5	2	-
伝染性紅斑	0 —	0 —	0 —	0 —	2	1	-
突発性発しん	0 —	0 —	0 —	1 0.50	-	-	-
ヘルパンギーナ	1 0.50	1 0.50	0 —	0 —	6	2	-
流行性耳下腺炎	0 —	1 0.50	0 —	0 —	6	2	3
急性出血性結膜炎	定点設定なし				1	0.1	-
流行性角結膜炎	定点設定なし				8	4	-
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	定点設定なし				-	-	-
無菌性髄膜炎	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎	定点設定なし				-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	定点設定なし				-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎(小児科)	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-
川崎病	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-
不明発疹症	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-

栗原支所管内定点数: #は3施設。それ以外は2施設

2. 施設対応状況 (過去2週間における支所対応状況) ◎:複数対応中、○:対応施設あり、-:対応無し

施設区分	保育所	高齢者・障害者入所施設	医療機関
対応状況	○	○	—
備考	感染性胃腸炎	新型コロナウイルス感染症	

*「1.発生動向」の解釈について

・上段は圏域全体で一週間に診断した患者数
 ・下段は一つの定点(医療機関)において一週間に診断した患者数
 ・下段の定点当たりの数値を表右側の判断基準と照らし合わせて評価してください。

3. 新型コロナウイルス感染症の段階適用状況

国の基準に基づき、在院者数に応じた本県の段階(Ⅰ～Ⅲ)を定め、段階に応じて即応病床数を設定しています。

	段階	適用期間	県の在院者数
今週	0	10/25～10/31	67人
前週	0	10/18～10/24	108人

※県の在院者数は毎週水曜日時点

4. 栗原支所より

【 定点把握対象疾患 】

- ・インフルエンザは前週より増加しています。
- ・新型コロナウイルス感染症は前週より減少しています。
- ・感染性胃腸炎は前週より増加しています。

【 集団発生情報 】

保育所において、感染性胃腸炎の集団発生がありました。PPE等の必要物品の在庫確認・補充、平時からの感染対策(手洗い、手指消毒、換気、PPE着用等)をしましょう。

【 感染症コラム ～マイコプラズマ肺炎～ 】

- ・肺炎マイコプラズマを病原体とする呼吸器感染症で、晩秋から早春にかけて流行します。
- ・陽性者の約8割が1～14歳までの小児です。
- ・初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などです。特徴的な症状である咳は、初発症状発現後3～5日より始まることが多く、乾性の咳が徐々に増強し、解熱後も3～4週間持続することがあります。
- ・感染経路としては、飛沫感染による経気道感染や、接触感染によって伝播すると言われています。
- ・肺炎マイコプラズマは特殊な構造をもつため、一部の抗生剤が効きません。
- ・流行期には手洗い、うがいなどの一般的な予防方法の励行と、患者との濃厚な接触を避けることが大切です。

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
 ☎0228-22-2117 📠0228-22-7595
 HP:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khhwfz/ktindex.html>